

令和5年度 県立常陸太田特別支援学校自己評価表

【別紙様式2】

目指す 学校像	◇一人一人の学びを大切にする学校 ◇家庭や地域と共に歩む学校 ◇地域の特別支援教育の推進に貢献できる学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・年度初めに危機管理マニュアルの更新の実施、避難訓練を中心とした防災教育の実施を行った。危機管理マニュアルの更新と活用の仕方について検討する。 ・感染症対策を充分にとり、安心安全な学習活動、行事を実施することができた。 ・避難所初期対応訓練において、教職員への周知や共通理解を引き続き実施し、学校全体としての防災力を高めていく。 ・熱中症対策ガイドラインを作成し、環境条件に応じた活動内容を明確にした。熱中症対策ガイドラインを活用し、徹底を図る。 ・開校から現在に至るまでの本校におけるキャリア教育実践についての考察をまとめ、博報堂教育財団が募集する論文に応募し、博報賞を受賞することができた。 ・各部体験学習、インターンシップでは、「OTAキャリア教育プラン」に基づいて評価表の様式を見直し、各部間で系統性のある評価を実施することができた。 ・学校間交流は、小・中学部は開校より同一校と継続実施しており、コロナ禍においても、内容を工夫して交流の実施ができた。 ・幼児教育施設や小中学校、高等学校からの依頼に応じて巡回相談や就学・転学にかかわる相談を実施し、地域へのセンター的役割を果たすよう努めている。 ・学習指導要領に基づき、育成を目指す3つの柱での小・中学部の各教科、各教科を合わせた指導の年間指導計画を作成している。「深い学び」の実現にむけて、実践と振り返りをととしてICTを効果的に活用した授業づくりに取り組んでいる。 ・各教育機関からの依頼に応じた巡回相談や専門家派遣、外部機関との連携を図るとともに、市町村教育委員会と連携して障害のある児童生徒の適切な学びの場を検討する。 ・多様なニーズに対応するため、巡回相談員の専門性を高めるとともに校内外における研修やケース会議の充実を図る。 ・各部・校務分掌部で業務改善に取り組む。働きやすさについて課題意識をもち、相談し合える環境や、休暇取得しやすくサポートし合える体制を構築する。		1 安全安心な 学校づくり	①危機管理体制の整備 ②地域と連携した安全管理 ③防災教育、健康教育の工夫 ④相談できる体制づくり ⑤保護者との連携	
		2 確かな学力の 習得	⑥各教科における「深い学び」を追求した授業づくりの推進 ⑦ICT活用による学習指導の充実 ⑧自立活動の指導の充実	
		3 キャリア教育 の推進	⑨社会に開かれた教育課程の取り組み（OTAぶどうプロジェクト） ⑩地域と連携した系統性のあるキャリア教育の推進 ⑪社会人講師による地域の特色を生かした作業学習 ⑫生涯学習への意欲を高めるスポーツ・文化芸術活動の充実 ⑬あいさつの励行	
		4 地域の特別支 援教育の推進	⑭心のバリアフリーを目指す交流及び共同学習の工夫 ⑮地域の特別支援教育を推進するセンター的機能の充実 ⑯多様なニーズに応えるための研修会の企画運営 ⑰小・中学校等への自立活動の指導に関する助言・援助の充実	
		5 専門性の向上 と働きやすさ	⑱教員としての専門性を高めるための研修会の実施 ⑲社会人としての資質能力を高める研修の充実 ⑳教員間でのサポートし合える体制づくり ㉑業務削減と休暇取得の推進	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果（○）課題（●）及び次年度（学期）への改善策（○）
学校経営 管理教育 計画	・安全・安心な環境作りと教職員の危機管理意識の向上を図る。	・個人情報保護や事故等の未然防止の具体事項について、口頭周知に加え掲示など「見える化」実施し、周知の徹底をする。	①		
	・児童生徒の実態を的確に把握し、安心・安全な生活を送るための指導の充実を図る。	・危機管理マニュアルの更新と活用を行う。 ・各マニュアルに沿った避難訓練を実施し、児童生徒の安全な避難方法の見直しと改善を図り、防災教育の充実を図る。 ・地域と連携した避難所開設初期対応訓練を実施する。 ・必要に応じて保健食育委員会を実施し、アレルギー対応のある児童生徒への迅速な対応を目指し、保護者や関係職員と連携して取り組む。 ・熱中症対策ガイドラインを活用し、徹底を図る。 ・緊急時に迅速な対応がとれるよう、緊急時のシミュレーション訓練を実施し、教員の危機管理意識の向上に努める。	①②③		
	・各教科等の目標に応じた主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの推進と学習評価の充実。	・主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの推進や学習評価の改善を図るため、授業実践の共有や研修を実施する。 ・効率的な授業づくりの充実を図るため、ＩＣＴを活用した教材教具の共有を推進する。 ・自立活動の指導の充実を図るため、年間指導計画及び授業づくりの検討を行う。	⑥⑦⑧		
	・居住地校交流学校間交流において、同年代の児童生徒とふれあい、共に活動することで人間関係や経験の拡充を図る。	・直接交流のみならず、作品や手紙、動画などを交換し合う間接交流を実施し、継続的に交流を行う。 ・充実した交流ができるよう、合理的配慮の理解を図りつつ、相手校と企画・調整を進める。	⑭⑮		
	・地域の特別支援教育を推進するセンター的機能の充実を図る。 ・多様なニーズに応えるため、校内外の研修やケース会議を実施する。 ・小中学校等への自立活動の指導に関する助言・援助の充実を図る。 ・相談できる体制づくりをする。	・巡回相談や、事業協力をととして関係機関との連携を図る。 ・教材・教具に関する情報提供をする。 ・ケース会議等で必要に応じて外部専門家を活用したり、依頼に応じて研修会を企画運営したりする。 ・自校の自立活動の授業内容の発信や自立活動係との連携による助言指導の充実を図る。 ・個別相談（しゃべり場）の実施と外部専門家の活用に取り組む。 ・課題のある児童生徒についてケース会議を随時行い、情報共有を図るとともに支援方法について検討する。また、必要に応じて外部専門家の活用や関係機関との連携を図る。	④⑬⑯⑰		
	・人権尊重、人権擁護の精神に立った個々の意識の向上に努める。 ・コンプライアンスの定義を理解し、法令順守の意識向上につなげる。	・人権教育、コンプライアンスなどに関する研修会を企画し、実施する。 ・人権教育、コンプライアンスなどに関する情報をタイムリーに提供する。	⑱⑲		
	・各教科における「深い学び」を追究した授業づくりを推進する。 ・各教科の「見方・考え方」に焦点を当て「深い学び」を実現する。	・外部専門家による授業参観を行い、「深い学び」を視点とした指導・助言をもらい、授業づくりに生かす。 ・学習指導部等と連携しながら校内研修を実施し、「深い学び」の視点から具体的な課題を整理し、改善を行う。	⑱⑲⑳		
	・業務内容の精選と削減を図る。	・他分掌部や他係と重複している業務内容の精選や削減を積極的に実施する。 ・計画や文書を確認し、削減できる内容については担当者の意見を聴きながら、簡略化できるよう調整する。	㉑		

教職員の育成及び指導・監督	・児童生徒や職員について、情報を共有し、組織で対応する。	・自分で考え友達や教師と学び合うことや、学習への意欲をもち自分の力を発揮することができるよう、一人一人に応じた指導・支援を行う。 ・個別面談や連絡帳等をとおして保護者と連携を図り、指導支援にあたる。 ・部全体で協力し合う体制づくりのため、主任会等で、児童生徒や職員の情報の共有や相談をする。 ・教員間でサポートや協力しあえる体制を作ることができるように、学年主任を中心に、日々の情報交換や相談の機会を積極的に作る。 ・インターンシップ先や、進路先の企業や福祉事業所、様々な制度について職員間で情報を共有し、児童生徒と本校のキャリア教育に関する取り組みの理解を広め、卒業後の職場や生活の場で必要な意見交換の場を設定する。	④⑤⑥⑩		
	・専門性を生かした校内研修を充実させ、授業づくりや児童生徒の指導に生かす。	・校内研修では、全職員の指導及び助言によるOJT機能を生かした専門性の高い研修を行う。 ・ミドルリーダーから意見等を聴取し、助言等を行う。 ・各教科における「見方・考え方」をどのように働かせるか、授業の組み立てや具体的な指導について考え実践するために、専門性向上部の係を中心に研修を行ったり、授業の見直し・改善等を行ったりする。 ・外部専門家と連携を図り、自立活動指導力向上研修会を企画、実施して、教師の専門性および指導力の向上に努める。 ・スペシャリストへ相談を募り、担任が直接助言や指導を受ける機会を設ける。 また、指導の様子を動画で記録し、対象以外の児童生徒の指導支援の参考となるようにする。	④⑧⑬⑱⑳㉑		
対外活動	・「本物に触れながら学ぶ」体験を積み上げることで「生活」や「働く」という意識を高め、地域での自立と社会参加をイメージする力を養いキャリア形成を図る。	・「OTAキャリア教育プラン」に基づき、学習指導部、学校 研究係、特別活動係との連携を図る。 ・小・中・高等部の段階的なキャリア発達を促す授業づくりやいばらきキャリア・パスポートの活用の推進を図る。 ・お仕事体験、職場体験学習では、体験をとおして自分の役割を果たすことや、働くことの喜びを味わえるよう、事業所等との連携を図り、校内外で直接的・間接的な活動を継続できるよう柔軟に計画し、実施する。 ・キャリア教育協議会を隔年で実施し、本校のキャリア教育の実践について、関係機関から意見を聞くことでさらなる充実を図る。 ・発達段階及び個のニーズに応じた企業・福祉事業を開拓し、卒業後の生活を見据えたインターンシップを行う。 ・企業や福祉事業所、関係機関と連携し、生徒と本校のキャリア教育に関する取り組みの理解を広め、卒業後の職場や生活の場で必要な意見交換の場を設定する。	⑨⑩		
	・地域団体や住民との交流で、理解啓発を推進し、併せて児童生徒のコミュニケーション力や人とかかわる力を高める。	・地場産業を取り入れた作業学習の活動内容や製品をチャレンジスポットに展示したり、瑞桜ギャラリーに地域住民の作品を展示したりすることで、地域住民へ、本校の特色を共有し、理解啓発を促す。 ・「OTAぶどうプロジェクト」で地域企業との協働作業をとおして地域への障害者理解を深めたり、児童生徒が地域の特色を学んだりできるよう企画・調整を進める。	⑨⑩⑭		

総務	・「見方・考え方」を働かせる指導について研修を行い、「深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。 ・ＩＣＴ機器の効果的な活用と、職員の情報機器活用力の向上を図る。	・「見方・考え方」を働かせる授業づくりに向けて授業の成果や課題を振り返ったり全体研修を 실시したりする等、職員研修の充実に向け専門性向上部や学習指導部と連携する。 ・校務支援システムの活用や機器の操作方法、アプリ等の活用研修を行い、障害特性に応じた学習指導・支援やタブレット端末等の積極的な活用への啓発を行う。	①②⑬		
	・安全・安心な環境作りと教職員の危機管理意識の向上を図る。	・個人情報の保護や事故等の未然防止の具体事項について、口頭周知に加え掲示など「見える化」実施し、周知の徹底をする。	⑬		
	・業務内容の精選と削減を図る。	・他分掌部や他係と重複している業務内容の精選や削減を積極的に実施する。 ・計画や文書を確認し、削減できる内容については担当者の意見を聴きながら、簡略化できるよう調整する。	⑳㉑		
	・地域との協働によるPTA活動を継続実施する。	・地域の商店会、企業とPTAが合同企画してPTA行事を継続実施する。	⑰		
学習指導	・各教科等の目標に応じた主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの推進と学習評価の充実。	・主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの推進や学習評価の改善を図るため、授業実践の共有や研修を実施する。 ・国語・算数・数学のステップアップシートの効果的・効率的な活用方法について検討する。 ・効率的な授業づくりの充実を図るため、ＩＣＴを活用した教材教具の共有を推進する。 ・自立活動の指導の充実を図るため、年間指導計画及び授業づくりの検討を行う。 ・読書タイムや算数・数学チャレンジタイムの充実を図るため、内容や学習評価について検討する。	①②③		
日常生活	・各児童生徒の個別の指導計画に基づいた指導を心がける。また、情報共有を密にし、家庭との連携も図る。 ・共有フォルダ（G）内教材を使用しやすいように改善したり、作成したりする。教材の有効活用、支援の充実を図る。	・個別の指導計画の目標を意識し、周囲にも周知徹底したうえで、統一した指導・支援を行う。 ・家庭との連携を深め、目標達成に導くために、指導・支援の方法や成果を伝える。 ・活用できる教材や情報を共有できるようにする。	②⑰㉑		
生活単元	・児童生徒の実態に応じた各単元の目標設定や活動内容など、生活に必要な力を得るための授業づくりと指導の充実を図る。 ・校外学習の系統性について検討し、系統表を作成する。	・新学習指導要領を踏まえながら、授業計画及び略案等の交換を行い、活動グループの構成など各単元の中で必要な力を得るための授業づくりのポイントについて、情報交換及び共通理解を図る。 ・各部における校外学習の目標や、内容について情報交換及び共通理解を図る。校外学習の目標や内容を精選し、系統表にまとめる。	①②		

作業学習	・将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、成就感を高めたり、実践的な態度及び技術を身に付けたりするための指導を行う。 ・社会人講師を活用し、地域の特色を生かした学習活動の充実を図る。	・作業学習としての共通目標の設定及び周知、それに伴う作業班の決め方の見直し、技術指導のための職員研修会の実施を行う。 ・地域の特色を生かした作業製品の製作や専門的な技術について、社会人講師から指導・助言を受け、共通理解のもと学習に組み込む。	①⑦⑩		
国語	・ICT機器を活用して、児童生徒の興味関心のある教材を提示し主体的な深い学びが展開できるようにする。 ・読書月間の内容の精選を図り、図書に親しむことができるようにする。家庭での読書活動を推進する。	・ICT機器の有効活用ができるように教材の共有をする。 ・読書月間では、「みんなで読書」「読書タイム」中心として、図書資料や新聞を活用する。 ・家庭にも「読書記録カード」を持ち帰り、図書に親しむ機会を広げる。	①②		
算数 ・数学	・ICT機器を活用した教材教具や授業における「深い学び」への取り組み、「学習 評価」について検討を行い、授業づくりと指導の充実を図る。 ・教材の利用が円滑に行われるようにする。	・ICT機器を活用した授業の取り組みや評価方法について情報交換を行い、工夫点や課題について検討する。 ・教材を整理し、貸出簿を活用する。	①②		
音楽	・電子黒板やiPadなどICTを効果的に活用した授業づくりを推進する。 ・児童生徒一人一人の特性に応じた音楽 活動を楽しめるような「表現」「鑑賞」及び共通事項の指導方法を工夫し、授業づくりの充実を図る。	・目的に合わせて電子黒板やiPadの活用方法を工夫し、各部・学年での実践について情報交換を行うことで、よりよい活用方法を共有する。 ・各部・学年の授業内容や指導方法、児童生徒の様子などについて、情報交換・情報を共有することで、互いの指導力の向上につなげていくようにする。	①⑤		
図画工作 ・美術	・授業におけるICT機器の効果的な活用を図る。 ・児童生徒の作品や造形活動に関する情報発信に努める。	・ICT機器の活用方法について情報交換や研修を行い、授業づくりに生かしていく。 ・作品展やコンクール等への作品出品や、ホームページへの写真掲載により情報発信していく。	①②⑦		
体育	・個に応じた質の高い授業を目指し、効果的なICTの活用を図る。	・ICTを活用し、自己評価、相互評価ができるような時間を設定し、深い学びが得られる授業を展開する。 ・ICTを活用し、児童生徒の実態に応じた指導、授業を展開できるようにする。	①②		
職業・ 家庭	・人の一生と生活に関する知識と技術の習得及び実践的態度の育成を図る。	・社会の変化に対応した指導内容を工夫し、生徒の実態に応じた授業を展開できるようにする。 ・教材管理の強化や事故防止等、学習環境の整備に努める。	①④		

道徳	・授業実践を積み重ね、豊かな心を育む道徳教育の充実を図る。 ・ICT機器を活用した授業づくりを実践する。	・道徳教育全体計画の重点目標を見直し、各部で重点目標を達成できるように授業を実践する。 ・効率的な授業づくりの充実を図るため、ICT を活用した教材教具等が共有できるようにする。	①②		
特別活動	・全校集会等で児童生徒が主体的な活動ができるような企画運営をする。また、異学年のオンライン・対面交流ができるようなゲームを企画する。 ・学級活動及びホームルーム活動の運営・連絡調整を行う。	・生徒会や係を中心に児童・生徒が主体的・意欲的に参加できる内容や時間配分を計画・検討する。 ・「いばらきキャリア・パスポート」等を活用した学習の計画・運営を行う。 ・全児童・生徒向けにいじめ防止に向けたポスター作りを行う。	①⑧		
自立活動	・授業における「深い学び」への取り組みや指導形態についての検討を行う。 ・自立活動指導力向上研修を企画し、教師の専門性の向上及び指導力の向上に努める。 ・スペシャリストへの相談方法、記録方法を検討する。 ・外部専門家、スペシャリストからの助言、指導内容の共有を図る。	・児童生徒の課題に応じた授業づくりをすすめる。また、実態把握のシートの作成を検討したり、classroom等を活用し情報交換を行う。 ・外部専門家と連携を図り、自立活動指導力向上研修会を企画、実施して、教師の専門性および指導力の向上に努める。 ・スペシャリストへ相談したいことを募り、担任が直接助言や指導を受ける機会を設ける。また、指導の様子を動画で記録し、対象以外の児童生徒の指導支援の参考となるようにする。	①③⑬		
総合的な学習の時間	・指導計画の改善に取り組む。生徒が自ら取り組む授業づくりと実践を取り入れる。 ・地域社会との交流や地域への貢献を図る学習を積極的に展開する。	・社会生活における参加や自立をめざした内容を盛り込んだ系統的な指導計画を作成する。 ・一人一人が興味・関心のあることを選択し、深い学びが得られる授業を展開する。 ・地域について調べたり、地域に貢献する活動を取り入れたりしていく。	①④⑤		
遊びの指導	・遊びの中で、自ら教師や友達とかかわろうとする態度やルールを守って遊ぼうとする気持ちを育てる。	・児童の個々に応じた関わり方や、伝え方など様々なコミュニケーション方法を認め合い、育てることで、他人とかかわる喜びの気持ちを育む。 ・遊びをとおして児童が他人や社会とのかかわりの入り口となるように、活動内容や環境設定の工夫、適正化を図る。	① ⑨		
部活動	・自主的、自発的に興味や関心のある活動をすることにより、主体的に目標をもって活動に取り組む態度を育てる。	・月間の活動計画や活動実績をホームページに掲載し、見通しをもって活動に参加することができるようにする。	④		

生徒指導	・登校から下校まで、楽しく安全で充実した学校生活を送れるよう、働きかけていく。	生徒指導	・生徒会を中心に全校児童生徒による校内マナーアップ運動を展開することにより、日頃からあいづをする習慣を身に付けられるようにする。 ・日々の観察から気付く小さい変化に対応し児童生徒との信頼関係を深めるとともに、保護者との個別面談、いじめ調査等とおして、いじめの早期見に努める。	⑪⑬		
		通学指導	・駅やバス停への巡回やバス会社との連携をとおして、安全な通学を進める。 ・生徒に対し、交通ルール順守の指導を適宜実施する。	⑫		
		スクールバス	・スクールバスの運行に関する会議のあり方、手続き、資料の内容、周知の仕方等について見直し、必要に応じて改善する。 ・車内の児童生徒の様子については、随時バス会社と情報共有し、安全な運行ができるよう協力する。	⑫		
保健安全部	・児童生徒の実態を的確に把握し、安心・安全な生活を送るための指導の充実を図る。	学校安全	・危機管理マニュアルの更新と活用を行う。 ・各マニュアルに沿った避難訓練を実施し、児童生徒の安全な避難方法の見直しと改善を図り、防災教育の充実を図る。 ・災害時に備え、安全な行動を選択する力が身に付くよう、各部・学年ごとに防災教育を実施する。 ・地域と連携した避難所開設初期対応訓練を実施する。	⑬⑭⑮		
		食育	・必要に応じて保健食育委員会を実施し、アレルギー対応のある児童生徒への迅速な対応を目指し、保護者や関係職員と連携して取り組む。 ・児童生徒の安全な摂食のため、食べる機能に応じた食形態の食事を提供する。 ・食育に関する掲示コーナーを活用し、学校教育活動全体で食に関する指導の充実を図る。 ・実態に応じた摂食の課題について研修し、指導の充実を図る。	⑭⑮		
		保健	・保健調査・服薬調査、健康診断等による実態把握や担任との情報の共有を図り、個に応じた健康管理や健康相談を行う。 ・熱中症対策ガイドラインを活用し、徹底を図る。 ・保健教育に関する指導用資料や掲示物を工夫し、健康教育の充実を図る。 ・緊急時に迅速な対応がとれるよう、緊急時のシミュレーション訓練を実施し、教員の危機管理意識の向上に努める。 ・地域や学校の感染状況に応じた感染対策を行う。	⑬⑮⑯⑰		

地域連携部	・地域団体や住民との交流で、理解啓発を推進し、併せて児童生徒のコミュニケーション力や人とかかわる力を高める。	地域交流	・地場産業を取り入れた作業学習の活動内容や製品をチャレンジスポットに展示したり、瑞桜ギャラリーに地域住民の作品を展示したりすることで、地域住民へ、本校の特色を共有し、理解啓発を促す。 ・「O T A ぶどうプロジェクト」で地域企業との協働作業をととして地域への障害者理解を深めたり、児童生徒が地域の特色を学んだりできるよう企画・調整を進める。 ・ホームページや回覧板等で学校の情報を適宜発信する。	⑤⑥⑦		
	・居住地校交流学校間交流において、同年代の児童生徒とふれあい、共に活動することで人間関係や経験の拡充を図る。	交流及び共同学習	・効果的な交流となるよう、事前交流として自己紹介カードや学校紹介の写真等を用いた活動を行う。 ・直接交流のみならず、作品や手紙、動画などを交換し合う間接交流を実施し、継続的に交流を行う。 ・充実した交流ができるよう、合理的配慮の理解を図りつつ、相手校と企画・調整を進める。	④⑧⑩⑪		
進路指導部	・「本物に触れながら学ぶ」体験を積み上げることで「生活」や「働く」という意識を高め、地域での自立と社会参加をイメージする力を養いキャリア形成を図る。	キャリア教育	・「OTAキャリア教育プラン」に基づき、学習指導部、学校 研究係、特別活動係との連携を図る。 ・小・中・高等部の段階的なキャリア発達を促す授業づくりやいばらきキャリア・パスポートの活用の推進を図る。 ・お仕事体験、職場体験学習では、体験をととして自分の役割を果たすことや、働くことの喜びを味わえるよう、事業所等との連携を図り、校内外で直接的・間接的な活動を継続できるよう柔軟に計画し、実施する。 ・キャリア教育協議会を隔年で実施し、本校のキャリア教育の実践について、関係機関から意見を聞くことでさらなる充実を図る。	①⑤⑥		
		進路指導	・発達段階及び個のニーズに応じた企業・福祉事業を開拓し、卒業後の生活を見据えたインターンシップを行う。 ・企業や福祉事業所、関係機関と連携し、生徒と本校のキャリア教育に関する取り組みの理解を広め、卒業後の職場や生活の場で必要な意見交換の場を設定する。	⑤⑥		
		卒業生支援	・進路指導主事と連携し、卒業生の相談を受けたり情報交換を行ったりするとともに、必要に応じて個別の支援を行う。 ・卒業生相互の親睦の機会を設定し、案内する。	⑥⑬		

総合的支援体制部	・地域の特別支援教育を推進するセンターの機能の充実を図る。 ・多様なニーズに応えるため、校内外の研修やケース会議を実施する。 ・小中学校等への自立活動の指導に関する助言・援助の充実を図る。 ・相談できる体制づくりをする。	地域支援	・巡回相談や、事業協力をとおして関係機関との連携を図る。 ・教材・教具に関する情報提供をする。 ・ケース会議等で必要に応じて外部専門家を活用したり、依頼に応じて研修会を企画運営したりする。 ・本校の自立活動の授業内容の発信や自立活動係との連携による助言指導の充実を図る。	⑩⑪⑫		
		教育相談	・個別相談（しゃべり場）の実施と外部専門家の活用に取り組む。 ・課題のある児童生徒についてケース会議を随時行い、情報共有を図るとともに支援方法について検討する。また、必要に応じて外部専門家の活用や関係機関との連携を図る。	⑩		
		就学相談	・体験入学や就学前教育相談について、申込手順などの明確化、HPの掲載方法の工夫を図り、就学を考えている保護者に分かりやすく情報が伝わるようにする。 ・就学や転学を検討している保護者や本人の悩みやニーズを聞き取り、転入学後の支援に活かせる体制を整える。	⑩⑬		
専門性向上部	・各教科における「深い学び」を追究した授業づくりを推進する。 ・各教科の「見方・考え方」に焦点を当て「深い学び」を実現する。	学校研究	・外部専門家による授業参観を行い、「深い学び」を視点とした指導・助言をもらい、授業づくりに生かす。 ・学習指導部等と連携しながら校内研修を実施し、「深い学び」の視点から具体的な課題を整理し、改善を行う。 ・実践研究を各学年ごとにまとめ、学校全体で共有することで実践研究の成果とする。	①⑱		
人材育成部	・新規採用教員研修では、受講区分を踏まえて実施する。 ・専門性を生かした校内研修の充実を図る。 ・校内授業研究が充実できるよう企画運営する。 ・研修時間の確保など負担軽減を考える。 ・人権教育では、人権尊重、人権擁護の精神に立った個々の意識の向上に努める。 ・コンプライアンスの定義を理解し、法令順守の意識向上につなげる。	新規採用研修 中堅教諭等	・校内研修の年間指導計画書を作成し、研修者及び受講区分に応じた研修内容を精選する。 ・校内研修では、全職員の指導及び助言によるOJT機能を生かした専門性の高い研修を行う。特に、ICTの活用の研修の充実を図る。 ・「個に応じた授業研究」をテーマに、授業研究をとおして授業について分析・検討をする。また、「深い学び」による授業作りに努め、改善を図る。 ・初任者に対しては、毎月第2火曜日を校内研修の時間として、校内研修を行う。また、長期休業中に実施する。また、校外研修の無い木曜日の5校時に研修時間を確保する。 ・SP一般については、校内研修を進めながら、学習指導部自立活動係と連携しながら、授業体制を考えていく。 ※今年度は中堅教諭対象者がいないので新規採用研修を中心に実施	①②③ ⑱⑲⑳㉑		
		現職教育	・人権教育、コンプライアンスなどに関する研修会を企画し、実施する。 ・人権教育、コンプライアンスなどに関する情報をタイムリーに提供する。	⑱⑲		

小学部	- 一人一人の障害特性を踏まえ、教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。 - 地域や学校での体験学習等とおして、興味や関心を広げ、仕事や社会への憧れの気持ちをもつとともに、将来の自立と社会参加に向けた基礎的な力を育てる。	- 自分で考え友達や教師と学び合うことや、学習への意欲をもち自分の力を発揮することができるよう、一人一人に応じた指導・支援を行う。 - 学習指導要領各教科等の目標や内容に基づき、ICTの活用等手立ての工夫をし、「深い学び」の視点での授業づくりを行う。 - 個別面談や連絡帳等とおして保護者と連携を図りながら学習の過程を大切にした評価をする。 「お仕事体験」等での役割の経験や「いばらきキャリア・パスポート」による評価とおして、達成感を味わうことができるようにする。 - さくらタイムや学校間交流、地域交流とおして、異年齢や同学年の友達、地域の人々のかかわり合いながら楽しく活動する。 - 部全体で協力し合う体制づくりのため、主任会等で、児童や職員の情報の共有や相談をする。	①②③⑤ ⑧⑨⑰⑳		
小1	一人一人の発達段階や障害特性に応じた指導の充実を図り、基本的生活習慣や学習への意欲を身に付けることができるようにする。	- 幼稚園・保育園からの支援を継続し、着替え・排泄・食事などの基本的活習慣が身に付くよう保護者と連携を図りながら、指導・支援を行う。 - 生活年齢を踏まえ、発達段階や障害特性に応じた「主体的・対話的で深い学び」による授業づくりや、ICTを活用した教材により興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。	①②③⑤ ⑰		
	友達や教師とのかかわりとおして、人とのかかわる力の基礎を身に付ける。	かかわりの基礎として、教師が率先してあいさつや言葉かけの手本を示し、互いの存在を認められるようにしたりする。2学年との授業や、お仕事体験などの時間とおして、かかわる楽しさが味わえるようにする。	⑤⑧		
小2	一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図り、基本的生活習慣や学習に対する意欲や態度を身に付けることができるようにする。	- 連絡帳や個別面談等とおして保護者と連携を図り、指導・支援を行う。 - 児童が「わかる」「できる」喜びを感じ、意欲的に学習に取り組むことができるよう、個々の実態を的確に把握し、個に応じた教材教具や支援方法、場の工夫等に努める。	①②③④		
	友だちや教師とのかかわりとおして、自分から人とかわろうとする意欲や人とかわる力の基礎を身に付ける。	様々な集団の中で、友達や教師とかかわり合いながら楽しく活動したり、簡単なやりとりをしたりする機会を多く設定する。	⑥		
		さくらタイムやお仕事体験等、異年齢の友達や地域の人とかかわる活動とおして、人とかわる楽しさを感じられるようにする。	⑧⑨		
小3	一人一人の障害の状態や特性、発達の程度等を踏まえた指導方法を工夫し、自ら学習に向かう態度を育てるようにする。	「わかる」「できる」喜びや達成感を感じながら褒められる経験を重ね、自分の力を発揮できるよう一人一人に応じた指導・支援を行う。 - 個に応じた課題を的確に把握し、個に応じた教材や教具、言葉かけ、支援方法を工夫する。	①②③		
	他学年との授業や体験活動等とおして人とかわる楽しさを味わうとともに、あいさつなどのコミュニケーションの基礎的な力を身に付ける。	- 学校生活全体とおして、教師が人とかかわり方やあいさつの手本を示したり称賛したりしながら、人とかわる楽しさを味わえるようにする。 - お仕事体験等とおして地域の方々と触れ合う機会を設ける。	⑥⑨		
小4	一人一人の発達段階や障害特性に応じた指導を図り、基本的生活習慣の確立を目指すとともに、基礎学力を獲得できるようにする。	- 自分で考える、友達と学び合う、ほめられる経験を重ね、自分の力を発揮できるよう、一人一人に応じた指導・支援を行う。 「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりを行い、繰り返し学習することで基礎学力の定着を図る。	①②③		
	- 自分で考える、友達と学び合う、ほめられる経験を重ね、自分の力を発揮できるよう、一人一人に応じた指導・支援を行う。 「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりを行い、繰り返し学習することで基礎学力の定着を図る。	- 学校生活全体とおして、望ましい言葉遣いやあいさつについて学習する。また、教師が率先して手本を示していく。 - さくらタイムや学校間交流、お仕事体験など、異年齢の人とかかわる機会を設ける。	⑧⑨		

小 5	- 一人一人の教育的ニーズに応じた課題に取り組み、生活に生かす基礎学力の定着を図る。 - お仕事体験や宿泊学習などの体験学習をとおり興味関心を広げ、将来の自立と社会参加に向けたコミュニケーション力や人とのかかわる力を育てる。	- ICT活用による学習方法や指導形態を工夫しながら「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業実践の充実を図る。 - 体験学習の中で様々な役割を経験しながら、達成感や成就感を味わうことができるようにする。 - 各授業の中で、グルーピング等学習形態を工夫したり、児童同士が学び合う・かかわり合うことができる場を設定する。	①②⑤ ⑥⑬		
小 6	- 一人一人の教育的ニーズに応じた課題に取り組み、実生活に活かせる力や応用力を身に付けることができるようにする。 - さくらタイム交流会のリーダーやお仕事体験等をとおり小学部最高学年としての自覚をもち、自分から行動し協力する力を育てる。	- ICTを日常的に活用する工夫を重ねながら「主体的・対話的で深い学び」の視点で、教員間で情報共有しより効果的な授業実践の充実を図る。 - 近隣の事業所でお仕事体験を継続する中で、グループリーダーの場面や協力し取り組む活動を設定する。 - 体験学習の中でリーダーとして挨拶や言葉かけを行い様々な役割を経験しながら、達成感や成就感を味わうことができるようにする。	①②⑤⑧ ⑩		
中学部	- 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導と生活年齢に配慮した学習内容の充実を図る。 - 小中高の系統性を踏まえた体験学習や交流学習をとおり、生徒が夢や希望をもちながら、将来の進路選択を意識できるようにするとともに、人と触れ合い、積極的に活動できるように努める。	- 生徒が自己理解を深め、主体的に活動したり、知っていることやできることを活用したりできるよう、生徒一人一人に応じた指導・支援を行う。 「深い学び」に向けての学習活動の工夫やICT機器の活用、各教科等の目標を踏まえた学習評価の充実を図る。 - 個別の指導計画や日々の生活、学習について、個別面談等をとおり保護者とともに具体的な目標を設定し、実態に応じた指導・支援を行う。 「OTAキャリア教育プラン」を踏まえ、地域と連携したキャリア教育の実践や、日々対話的な学習を実施し、生徒が将来への夢や希望、憧れの気持ちをもてるよう指導・支援していく。 - お互いに交流する楽しさや意味を感じることができるような、中学校の生徒との交流活動を設定し、実態に応じた指導・支援を行う。 - 教員間でサポートや協力しあえる体制を作ることができるように、主任会を中心に、日々の情報交換や相談の機会を積極的に作る。	①②③④ ⑤⑧⑨⑬ ⑰⑳		
中 1	- 発達段階や特性に応じた学習内容や指導の手立ての工夫をし、基礎 的学力の向上を図る。 - 働く体験学習をとおり、将来に必要な基礎的な態度や意識を育てる。	- 個別面談や連絡帳などで家庭と連携し、一人一人に応じた指導・支援を行う。 - 生徒の課題や実態に応じた授業づくりを行い、主体的に学び、基礎的・基本的内容の定着を図る。 - 作業学習や職業・家庭の活動で、「できた」「わかった」ことを称賛し、自信に繋げていく。 「いばらき・キャリア・パスポート」を活用し、生徒自身がキャリア課題を意識するよう指導・支援していく。	①⑤⑥⑦ ⑧		
中 2	- 一人一人の教育的ニーズに応じた学習内容や指導・支援工夫に努め、基礎学力の定着や人とのかかわる力の育成を図る。 - 小中高の系統性を踏まえた働く体験学習をとおり、自己理解を深め社会生活に必要な態度や意識を育てる。	- 連絡帳や個別面談などをとおり保護者と連携し、個に応じた指導・支援を行う。 - 新学習指導要領や個別の指導計画に基づいた授業実践と評価を重ねていくことで、一人一人の教育的ニーズに応じた支援・指導を行う。 - 新学習指導要領や個別の指導計画に基づいた授業実践と評価を重ねていくことで、一人一人の教育的ニーズに応じた支援・指導を行う。 「いばらき・キャリア・パスポート」を効果的に活用し、自己理解につなげられるような指導・支援を行う。 - 作業学習や職場体験など、生徒が自主的・対話的な活動に取り組むことで、将来への夢や希望、憧れの気持ちをもてるような指導・支援を行う。	①⑤⑥⑦ ⑧		

中 3	- 一人一人の教育的なニーズや特性、発達段階を的確に把握し、基礎的・基本的学力の向上を図るとともに、自ら取り組もうとする態度や人とのかかわる力の育成を図る。 - 将来の社会生活に必要な知識や技能を体験的に継続して学習することで、中学部卒業後の進路を意識したり、目標達成に向けて取り組んだりする力を育てる。	- 国語を中心に、聞く力や話す力を育むための授業づくりと評価を行い、指導・支援の方法を工夫する。 - 積極的にICT機器を利用し、情報モラルについて身に着けながら個に応じた活用方法の定着を図る。 - 連絡帳や個別面談を通して保護者と連携し、個の発達段階や特性に応じた指導・支援を行う。 - 作業学習、職業・家庭、職場体験学習などの学びや経験を、生活の中で前向きに活かそうとする態度や意識を養う。 「いばらき・キャリア・パスポート」の作成・活用をとおして、生徒自身が自分の成長を自己評価できるよう、言語化や対話により指導・支援を行う。	①②		
高等部	一人一人の教育的ニーズに応じた授業の充実を図り、「深い学び」の実現にむけて授業づくりを行う。	- 各教科における「見方・考え方」をどのように働かせるか、授業の組み立てや具体的な指導について考え実践するために、専門性向上部の係を中心に研修を行ったり、授業の見直し・改善等を行ったりする。 - 障害特性に応じた効果的なICT機器、アプリの活用方法について、情報係と連携して研修を行い、授業での積極的な活用を図る。	①②		
	将来の自立と社会参加にむけて必要な力を培うため、系統性のあるインターンシップを行う。	- 進路面談等で、本人、保護者の希望を聞き取り、担任と進路指導主事が連携して生徒の指導・支援を行う。 - インターンシップ先や、進路先の企業や福祉事業所、様々な制度について職員間で情報を共有し、進路指導を行う。	⑤⑬		
	社会人講師による地域の特色を生かした作業学習、OTAぶどうプロジェクトの取り組みを継続実施する。	- 作業学習ではソーイング班と「SCOIプロジェクト」、クラフト班と武龍ワイナリーが連携して製品作りを継続実施する。 - OTAぶどうプロジェクトの「収穫体験」を太田西山高校との学校間交流と併せて、「ワインの仕込み体験」「ワイン贈呈式」を武龍ワイナリーとの地域交流と併せて継続実施する。	④⑥		
高 1	ICT機器を活用し個に応じた学習支援をすることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。	- 個別の指導計画、個別の教育支援計画を活用し、保護者と連携を図りながら、R P D C Aサイクルを用いた授業づくりを行う。 - 障害特性や心身の発達段階を把握し、配慮しながら支援方法を考える。	①		
	卒業後の生活のイメージをもち、社会参加を目指すことができるように、進路学習や進路相談の充実を図る。	「いばらき・キャリア・パスポート」の活用や、インターンシップをとおして、自分自身のことや興味・関心のあることについて言語化したり記録したりしておく。生徒本人をはじめ、保護者へも面談等をおして事業所や福祉施設の情報を伝えていく。	⑤		
高 2	生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階にあった支援を行い、適切な進路選択に向けて挑戦できる基盤を作る。	自分の適性や課題に気づき、卒業後の生活について希望をもち、様々な経験をおとして、自分の取り組みたいことややりたいことを見つけていくことができるようにする。	①⑤		
	各授業をとおして、自己肯定感を高め、自分の適性を理解し、自主的・主体的な行動ができるように支援する。	- 各授業をとおして自己肯定感を高め、自分で考えて動く経験を重ね、場面ごとの判断ができるように、始めは適宜支援し少しずつ自分から主体的に行動できるようにする。 - 各授業でICTを活用して生徒自身が自主的・主体的に活動できる場面を多く設定する。 - 学年目標のひとつとして「自分からあいさつをしよう」を設定し、学年集会等で学期ごとに評価する。	①②⑧		
高 3	一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させ、学習を通して自分自身の自信につなげられるようにする。	生徒の習熟度に応じた学習内容を考え、できたという達成感を自信につなげていけるよう、生徒一人一人の実態に応じた授業を展開する。	①		
		授業全般やインターンシップをとおして自分自身と向き合い、できたことを評価することで自己肯定感を高められるようにする。	⑤		
	卒業後に夢や希望をもって社会参加や自立を目指すことができるように、進路学習、進路相談に努める。	生徒の意思や希望を実現できるように、職業や作業学習を通して、働く力、働くために必要な事を伝えていくようにする。	⑬		
		社会参加や自立に向けて生徒の気持ち卒業後の進路に安心して向えるように、事業所や福祉施設などの情報を収集し、随時伝えていく。	⑥		

*評価基準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない